

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人鹿児島県文化振興財団	
施 設 名	霧島国際音楽ホール (みやまコンセール)	
助成対象活動名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額 (総額)	8,203	(千円)
公 演 事 業	2,689	(千円)
人 材 養 成 事 業	3,245	(千円)
普 及 啓 発 事 業	2,269	(千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【公演事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、 スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ラデク・バボラークwith みやまアンサンブル	2018年10月14日	<p>【出演者】 ラデク・バボラーク（ホルン独奏・指揮） 「バボラーク・アンサンブル」 ダリボル・カルヴァイ、マルティナ・バチョヴァ（ヴァイオリン）、カレル・ウンターミュラー（ヴィオラ）、ハナ・バボラーコヴァ（チェロ）、マレク・シュヴェストカ（コントラバス） 「みやまアンサンブル」 みやまコンセール協力演奏家</p> <p>【スタッフ】 企画・舞台監督…増森健一郎（霧島国際音楽ホール事業課長兼舞台監督） 企画・運営…五代香織（霧島国際音楽ホール芸術文化専門員） 制作協力…荒井雄司（株式会社アマティ） 舞台技術…村場盛義（株式会社MBCサンステージ） 副指揮者…増森健一郎（霧島国際音楽ホール事業課長兼舞台監督）</p>	目標値	700
		主ホール		実績値	410
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	700
				実績値	410

(2) 平成30年度実施事業一覧

【人材養成事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、 スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	みやま音楽アカデミーⅠ 「みやま音楽塾・鑑賞編」	2018年5月6日 2018年5月12日 2018年5月13日 2018年5月20日	【出演者】 5/6「きりしまクラシック・カフェ」 山田武彦（ピアノ）、松本しのぶ（ご 案内）、奥村愛（ヴァイオリン） 5/12「クラシックのツボvol.1」 桃坂寛子（ピアノ）、今林吹音（ヴァ イオリン）、講師：増森健一郎（霧島 国際音楽ホール事業課長兼舞台監督） 5/13「クラシックのツボvol.2」 桃坂寛子（ピアノ）、瀬戸口浩（バリ トン）、増森健一郎（霧島国際音楽 ホール事業課長兼舞台監督） 5/20「うたたねクラシック」 ふかわりょう、遠藤真理（チェロ）、 林美智子（メゾソプラノ）、三船優子 （ピアノ）、Yumi（フルート） 【スタッフ】 企画…増森健一郎（霧島国際音楽ホ ル事業課長兼舞台監督） 制作協力…「きりしまクラシック・カ フェ」→田村孝史（株式会社テレビマ ャンユニオン）、「うたたねクラシッ ク」→高木聡（株式会社ジャパン・ アーツ） 舞台技術…村場盛義（株式会社MBCサン ステージ）	目標値	1,500
		主ホール		実績値	401
2	みやま音楽アカデミーⅡ 「みやま音楽塾」	2018年8月11日～ 2019年2月11日	【講師】 監修：海老原光（指揮者） 講師：海老原光、みやまコンセール事業 課職員、みやまコンセール協力演奏 家 特別講師：浜中康子（バロックダン ス） 【スタッフ】 総合企画…増森健一郎（霧島国際音楽 ホール事業課長兼舞台監督） 企画・運営…松尾幸輝（霧島国際音楽 ホール芸術文化専門員） 舞台技術協力…村場盛義（株式会社MBC サンステージ）	目標値	1,300
		主ホールほか		実績値	1,094
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	2,800
				実績値	1,495

(2) 平成30年度実施事業一覧

【普及啓発事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、 スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ミニ・コンサート	2018年4月19日～ 2019年2月17日 計41回	【出演者】 みやまコンセール協力演奏家 【スタッフ】 企画・調整…松尾幸輝（霧島国際 音楽ホール芸術文化専門員） 舞台技術…村場盛義（株式会社MBC サンステージ）	目標値	3,450
		主ホール		実績値	3,265
2	さてらいとコンサート	2018年6月30日, 7月1日 2018年11月10日 2018年11月16日 2018年11月17日 2018年11月18日 2018年12月9日（2公演） 計8回	【出演者】 みやまコンセール協力演奏家 【スタッフ】 企画・調整…松尾幸輝（霧島国際 音楽ホール芸術文化専門員）	目標値	1,000
		喜界島, 奄美大島, 霧島 市		実績値	1,380
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	4,450
				実績値	4,645

【妥当性】

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

当ホールは、県民の音楽文化の振興と音楽を通じた国内外の人流促進を図ることを主目的として設置された音楽専門ホールであることを踏まえ、「新たな音楽文化の創造を目指す音づくり・人づくり」、「豊かな自然との調和」、「世界を視野においた音楽文化の交流」を目指して、次のような基本的な考えた方のもとに文化事業を実施している。

ア 世界を視野においた芸術性の高い音楽文化及び交流の場の創造を目指した「霧島国際音楽祭」の実施

イ 県民の豊かな文化性を育む音楽専門ホールにふさわしい質の高い音楽鑑賞事業の展開

ウ ホールの特性を生かした音楽教育、音楽活動・研修等の支援

エ 地域の特性・資源を生かした「霧島国際芸術の森基本構想」推進のための、霧島国際音楽祭の実施と音楽専門ホールの特性を生かした質の高い音楽事業の展開

事業の企画・実施に当たっては、音響学的にも極めて優れている主ホールや霧島の豊かな自然に包まれた野外音楽堂の特性を生かしながら、多彩なジャンル、質の高い音楽をより多くの機会を用意し低廉な価格で提供できるように努めた。また、助成対象事業「みやま音楽アカデミーⅠ・Ⅱ」を始めとする、音楽指導者音楽を愛好する県民を対象とした講習会も積極的に開催し、音楽文化に資する取組も行った。

平成30年度に計画した事業は、概ね計画通りに実施することができた。公演数は、ミニ・コンサート41公演、アウトリーチの「おとどけコンサート」が22公演、「さてらいとコンサート」が10公演であった。大型企画事業・自主制作企画事業等の16公演と併せて、総公演数は86公演であった。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

当ホールでは、平成30年度は93人のみやまコンセル協力演奏家を登録しており、地元に住する多くの演奏家の協力を得られることで、様々な企画が可能となっている。

「withみやまアンサンブルシリーズ」は通常なら共演不可能である世界的なアーティストらと共演することによって、地元の演奏家に刺激を与え、演奏力や表現力の向上を図るとともに、一流の音楽観に触れることで自らの音楽観を深めてもらうことに意図した事業である。地元の演奏家に対する評価も高まり、継続が期待されているほか、新しい客層の開拓にもつながっている。

「みやま音楽アカデミー」は、当ホールの職員による楽典や音楽史、ソルフェージュなどの講義に加え、協力演奏家による実技レッスン、合奏・アンサンブル指導、音響や照明などの舞台業務体験、演奏会の企画・運営体験などの講座を通して、音楽を幅広く多岐にわたって学んでもらう事業で、練習室の多い施設・設備を持つこと、音楽科教諭経験者が常勤していること、多くの協力演奏家がいること、舞台技術者が常駐していることなどの当館の特性をフルに活用した事業であり、多方面からも注目を集めている。

「ミニコンサート」は、協力演奏家による演奏が行われる。近隣にある研修施設との連携により、宿泊学習の研修プログラムの一つとしての利用があるほか、各種研修旅行や、なかなかコンサートに来る機会がない特別支援学校の児童・生徒や高齢者等を対象として行っている。年間40回～50回程度の公演依頼があり、職員によるクチャー付きコンサートが参加者からも好評である。「さてらいとコンサート」は、離島を中心に、生の音楽を聴く機会の少ない地域へ演奏者を派遣する事業で、コンサートの前後に、老人ホームや病院などでの慰問演奏や、子供たちを対象としたワークショップ、実技指導なども行い、音楽文化の振興の一助となっていると考えられる。

【有効性】

自己評価

目標を達成したか。

1 公演事業

ラデク・バボラークの協奏曲・独奏曲に特化した、当館だけのオリジナルプログラムが実現し、バボラークの魅力を十分に味わえる演奏会になった。

また、特別に編成した室内オーケストラ（みやまアンサンブル）は、練習の段階から非常に高い集中力を持って臨み、十分な準備ができた。その結果、バボラーク氏からも非常に高い評価を得られ、本番でもクオリティの高い演奏が実現できた。みやまアンサンブルのメンバー自身にとっても大きな刺激となり、演奏力や表現力の向上を図るとともに、一流の音楽観に触れることで自らの音楽観を深めてもらう機会となった。

さらに、来場者アンケートからは、地元の演奏家の評価の向上やファン層の拡大にもつながる結果が得られた。

2 人材養成事業

アカデミーⅠにおいては、気軽にクラシックを楽しめる演奏会が実施できたとともに、クラシックの幅広い楽しみ方を実感していただける演奏会ができた。

アカデミーⅡにおいては、演奏技術の基礎や音楽の基礎理論、舞台運営など、普段の学校や部活動では学べない内容で、受講生の演奏力向上や音楽への理解を深めることにつながった。受講者も中・高生～一般と幅広く得られ、受講生相互の交流を深めながら音楽の楽しさを存分に味わうことができる事業を展開できた。

3 普及啓発事業

ミニ・コンサートにおいては、各鑑賞団体の年齢や人数、要望、また季節等に応じたプログラムやレクチャー内容の工夫に努め、音楽ホールの特性を活かした親しみをもてるコンサートを実施することができた。その結果、平成30年度は41回の開催ができ、最終で第1084回まで実施した。

さてらいとコンサートにおいては、開催対象地区【大島地区（奄美大島・喜界島）】での演奏会のほか実技指導やバンドクリニックも実施でき、音楽への興味・関心を更にもっていただける機会となった。

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

平成30年度に計画した事業は、概ね計画通りに実施することができた。いずれの事業においても、4か月以上前に実施要領の詳細を決定し、物的・人的環境等に見通しをもって実施することができた。

公演事業「ラデク・バボラークwithみやまアンサンブル」では、マネジメント事業者との連絡・調整及び出演者との連絡を迅速に行うことができたとともに、みやまコンセール協力演奏家を中心とした地元演奏家で結成する室内オーケストラ「みやまアンサンブル」メンバーの調整や事前の練習等も計画的に行うことができたため、クオリティの高い演奏が実現できた。

人材養成事業「みやま音楽アカデミーⅠ」では、前年度から計画的に準備を行っていたことで、事業の趣旨に合った演奏者を招聘することができた。また、当ホール職員が講師を務めたり、みやまコンセール協力演奏家の協力を得たりすることができ、経費等の節減に努めることもできた。

「みやま音楽アカデミーⅡ」では、受講料や聴講料を文化普及活動として利用しやすい料金に設定することができたとともに、自作の講義資料や近隣学校からの楽器借用など、経費等の節約に努めながら事業を実施できた。なお、当ホールの課題である公共交通機関でのアクセスが、受講の妨げとならないようにするために、受講生の無料送迎バスの運行を行い、車をもたなかったり保護者の送迎がないと来館できなかつたりする受講生が参加しやすい環境整備ができた。

普及啓発事業「ミニ・コンサート」、「さてらいとコンサート」では、日頃生演奏に触れることの少ない方々に生の音楽を提供することや、離島やへき地など、遠隔地における音楽文化の充実を図ることができたとともに、コンサートの入場料を低価格・無料にできたほか、出演者の旅費を抑えることで、遠隔地へ出向くことができた。

【創造性】

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

1 公演事業

平成30年度で3回目を迎えた「withみやまアンサンブルシリーズ」は、世界的なアーティストと協力演奏家で編成した室内オーケストラとが共演する当館のオリジナル企画である。

この企画の意図は、普通なら共演不可能である世界的なアーティストらと共演することによって、地元の演奏家に刺激を与え、演奏力や表現力の向上を図るとともに、自らの音楽観を深めてもらうことにある。平成30年度は、世界的ホルン奏者のラデク・バボラークとの共演が実現した。コンサートの成功によって、地元の演奏家に対する評価も高まり、今後も継続してほしいと高い評価を受けただけでなく、この新しい客層の開拓にもつながっていることから、地域の文化拠点としての機能を発揮する事業として価値のある事業であった。

2 人材養成事業

平成30年度で4年目となった「みやま音楽アカデミー みやま音楽塾」は、約半年間、当ホールの音楽科教諭による楽典や音楽史、ソルフェージュなどの講義に加え、協力演奏家による実技レッスン、合奏・アンサンブル指導、音響や照明などの舞台業務体験、演奏会の企画・運営体験など10数回の講座を通して音楽を幅広く多岐に渡って学んでもらう企画である。これらは、練習室の多い施設・設備を持つこと、音楽科教諭経験者が常勤していること、多くの協力演奏家がいること、舞台技術者が常駐していることなどの当館の特性があるからこそ実現可能な企画であり、多方面からも注目を集めている。最終日には受講者自身が企画した修了演奏会を行い、今年度は鹿児島県出身の指揮者“海老原光氏”が特別指揮者としてタクトを振り、また前日には同氏による特別講義も実施した。

平成30年度新たに実施した「みやま音楽アカデミー みやま音楽塾 鑑賞編」は、クラシック演奏会の鑑賞者が減少傾向にあることを踏まえ、新たなクラシック愛好者を創出することを目指した企画である。

本事業では、音楽を「聴く」ための基礎的な知識として、音楽史や楽曲形式、時代様式、演奏形式、各作曲家の特徴など幅広く、楽しく学んでいただくことや、「クラシック音楽の聴き方」を自分なりに体験していただくことを通して、クラシック音楽ファンの拡大と音楽文化の振興を図ることを目的としている。企画に当たっては、クラシック入門のような内容の買取公演を単に実施するのではなく、当ホールに3人の音楽科教諭が在職する特長を生かし、クラシック音楽に関する様々な知識や経験を学ぶ講座を同時開催し、普段は学ぶ機会の少ない音楽の基礎的な知識や仕組み、歴史などを総合的に学ぶ機会として本事業のカリキュラムを構成した。さらに、参加者がクラシック音楽を楽しめる絶好の機会として、当ホールで毎年夏に開催される霧島国際音楽祭を位置付け、5月実施とするなど、当ホールの特色や強みを生かした事業展開となるようにした。来場者も満足のいく内容であった。

3 普及啓発事業

当館は山間部に立地しており、自然に囲まれたすばらしい環境に立地する反面、公共交通機関でのアクセスは非常に不便な状況である。また、鹿児島県や当館が立地している霧島市も、人口の減少、高齢化が進行しており、当館が公演時に実施しているアンケート調査でも、来館者の高齢化が進み、若い世代の来館者数は伸び悩んでいる。このような状況の中、当ホールの「ミニ・コンサート」「さてらいとコンサート」は、県民の音楽文化の振興・普及を推進するために、当ホールを利用したくてもなかなか利用できない遠隔地の県民や、若年層に対する質の高い音楽の提供といった視点で極めて従業な事業であるととらえている。実施団体への事後アンケートでも、事業に対する評価が得られたとともに、クラシック音楽のよさを指摘する声や今後の音楽鑑賞への意欲への高まりが感じられる声が多く挙げられた。

【創造性】

自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

【地元音楽家の演奏機会の提供】

当ホールでは、平成30年度は93人のみやまコンセール協力演奏家を登録しており、地元に住する多くの演奏家の協力を得られることで、様々な企画が可能となっている。

協力演奏家が互いに切磋琢磨し、自らの演奏技能や音楽性を磨くことで専門性の維持向上を図り、本県の音楽文化の振興に寄与するという目的を共有し、地域の音楽文化の核としてそれぞれが活躍している。当ホールでは「ミニ・コンサート」「●●withみやまアンサンブル」などにおける演奏を通して、地元の演奏家の活躍の場を積極的に提供するとともに、協力演奏家間の交流を図り、新しいレパートリーの開発なども意図して助言することを通して、地域の音楽文化の核である協力演奏家の演奏力、企画力の向上を図り、地域の音楽文化の更なる振興と、これからの音楽文化を担う人材養成にさらに力を入れている。

【離島や遠隔地における演奏家の派遣】

また、鹿児島県は南北約600kmに渡る広大な県土に多くの離島を抱えており、それらの多くは生の演奏に触れる機会が非常に少ない。さらに離島以外の地域でも人口の少ない遠隔地が多く、それらの地域では経済的にもコンサートを招聘することが困難な状況がある。このような状況を踏まえ、日頃、音楽に接する機会が少ない離島など県民にクラシック音楽を身近に感じ、親しんでもらう機会とすることを目的に大島地区で実施した「さてらいとコンサート」では、全体で1,550が来場するなど、多くの方々にとって生の音楽に親しむ機会となった。また、可能な限り楽器体験やクリニック、地元の子どもたちとの共演などの機会をつくったり、クラシック音楽だけでなく、島唄や民謡など、その地域に根ざした音楽をプログラムに取り入れたりするなどして、地域の文化芸術に触れられるような場も設定するようにした。

なお、「さてらいとコンサート」は離島や遠隔地の市町村の財政状況を考慮し、より多くの県民に生の演奏機会を提供できるようにという理念のもと、経費はすべて当館が負担している。

【地元文化施設・音楽団体との連携】

開館間もない頃から実施している鹿児島市内及び霧島市・始良市中心部（H29年度から運行）発着の日帰りバスツアーで、霧島アートの森や上野原縄文の森のほか地元文化施設等と連携して「霧島国際芸術の森基本構想」の一環として行っている事業である。コンサートのみの鑑賞もできる。高齢者や自動車免許不取得者などのいわゆる交通弱者を中心に人気企画となっている。

コンサートは自主企画で行っており、協力演奏家や地元の演奏家（島唄、ジャズなど）に出演してもらっている。

以上のような協力演奏家を中心に行う事業の他、野外音楽堂（4,000人収容）で地元の小・中・高等学校、及び一般の音楽団体が出演する「野外音楽フェス～みやまの森の響き」も毎年行っている人気企画である。毎年特別ゲストを招いた特別ステージを行うほか、地元の音楽団体との共演なども行っており、県民の音楽活動の支援も行っている。

【持続性】

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

当ホールの管理・運営は、鹿児島県から公益財団法人鹿児島県文化振興財団が指定管理者として指定を受けており、職員は鹿児島県や霧島市からの派遣職員及び財団職員で構成される。

特に、事業課の鹿児島県教育委員会からの派遣職員は全員が音楽科教諭であり、派遣期間は通常3年となっている。

事業課の企画・運営を音楽科教諭が中心に行う意義は、音楽の専門的知識や技能、教育理論や教育技術などを持った人材を常駐させることにより、「音楽文化の伝承と創造のための教育研修機能」という目的を達成するところにある。このため、音楽文化振興のための普及・啓発、人材養成の事業について当館の果たす役割は極めて大きい。

一方で、鹿児島県や霧島市からの派遣職員の勤務が多いことから、円滑な事業運営のために職員研修が極めて重要である。

このため、年度当初において、全国公立文化施設協会等が主催する各種研修会への参加計画を立て、職員の職務内容、経験年数に応じ最適な研修を促し、職員の資質向上に努めている。

【平成30年度に受講した主な研修等】

- 1 全国公立文化施設協会の研究大会の他、同九州支部主催の「業務マネジメントセミナー」、
「九州地域アートマネジメント研修会」
- 2 鹿児島県公立文化施設連絡協議会主催の、公演の準備・設営、スタッフとの連携等の体験研修
- 3 九州の公立文化ホールで構成する「九州類似ホール連絡会」における、企画制作に関することを中心とした意見・情報交換、課題研究
- 4 著作権に関する基礎的な理解を深め、著作権制度の知識や意識の向上を図るため、文化庁主催の「著作権セミナー」へ参加

なお、令和元年度より「霧島国際音楽ホール音楽アドバイザー制度」を創設し、当ホールのアートマネジメントノウハウ等が継承できるような体制を構築している。